

職員による自己評価

A環境面

・環境整備（バリアフリー化）、体制（職員数）が適正か、どちらとも言えない

B児童への支援内容

・適切な支援の提供ができています

C関係機関との連携

・放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもとの交流がない

D保護者への説明責任・信頼関係

・保護者同士の連携の機会があるか、どちらとも言えない

E非常対応

・適正だと感じる

保護者による評価

A環境面

・ガラス飛散フィルムが全面に貼ってあり室内の様子が外から見え辛い

・のびのびと過ごせる環境でありがたい

B児童への支援内容

・障害のない児童との交流があるのかわからない

C事業所からの情報発信

・児童の活動内容ではなく、どのような様子だったのかももっと詳しく聞かせてほしい

・保護者会の参加案内がないので参加できていない

・相談事へのリプライが早くて助かる

・翌月のおたよりをととても楽しみにしているので、紙面で受け取れない場合はデータが閲覧可能だとありがたい

D非常対応

・防犯マニュアルはあるのかわからない

事業所内での分析

【共通点】

・自事業所外の児童とのかかわりが少ない

【相違点】

・環境、職員体制が適正か不明（保護者 感じていない）

・環境 ガラス飛散防止フィルムが目隠しだと感じている（職員 感じていない）

・発信 保護者会の案内がないと感じている（職員 機会はあるが連携は不十分だと感じている）

・発信 児童の様子をもっと詳しく教えてほしい（職員 十分だと感じている）

・非常対応 防犯マニュアルがあるのかわからない（職員 十分だと感じている）

## 分析・検討してみたて…

### 事業所の強み

- ・支援に関して保護者より満足いただけている結果があり、日々の活動プログラム・支援は適正に行えていると感じる。また、職員も、自信を持って支援ができています。
- ・環境面では児童がのびのびと過ごせているお声もあり、整備が行き届いていると感じる。
- ・職員配置においては、事業所はやや不十分だと感じる声もあったが、保護者は不満に感じていないことから、よく連携が取れているものと思われる。

### 事業所の改善点

- ・定期イベントやプログラムなどの発信に力を入れ、「情報を知らなかった」方がないようにする。また、保護者同士の交流・連携については不透明な箇所あり、イベントの内容・目的を再検討していく。
- ・他の団体との交流については、感染症の状況をみながら、どのようにしたらかわれるか検討していく。
- ・災害・防犯などのマニュアルなども適宜情報発信をおこない、非常時にも安心してご利用いただけるようにする。

### 事業所の改善への取り組み

- <環境>ガラス飛散フィルムは上部を取り除き（児童の手が届く箇所は破損の可能性があるのでそのままにさせていただきます）、外部からも室内が見える形にします。
- <地域連携>定期的なイベントの企画などを通して、外部との接点を積極的に持てるようにします。主に「さくらまつり」や「収穫祭」など、近隣の他事業所などにも積極的に声掛けをおこないます。
- <保護者への情報発信>書面や口頭、SNS を用いて積極的にコミュニケーションを図り、日々の支援の状況・活動プログラム・保護者会情報を知っていただけるよう努めていきます。また、保護者参加型イベントについては、保護者同士の交流が持てるよう企画していきます。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

今回、【鶴ヶ峰もえぎ】へ多数のご意見をいただき、ありがとうございました。改めて事業所として足りていない部分・改善すべき点について考える機会となりました。支援においては、おかげさまでご満足いただけている結果を受け、大変嬉しく感じております。環境整備・情報発信においては改善を図り、皆様の期待に応えられるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしく申し上げます。

事業所名 鶴ヶ峰もえぎ

担当者 佐藤 真理子